

グルメマンガの男女登場人物に割り当てられる 「うまい」と「おいしい」

— 割り当てられる文脈とは何か —

稲永 知世

本発表は、グルメ漫画の女性および男性登場人物に、「うまい」や「おいしい」といった味覚を評価する味ことば（味覚評価表現）が割り当てられるのはどのような文脈においてであるのかを分析および考察する。本発表では、以下のグルメ漫画を分析対象とする：『ワカコ酒』（1～20巻）、『忘却のサチコ』（1～19巻）、『孤独のグルメ』（1・2巻）、『深夜食堂』（1～26巻）、『大衆酒場ワカオワカコ酒別店』（1～7巻）。

稲永（2022）は、ジェンダーにもとづいて、味ことばに関する規範と現実の落差をのぞくため、とりわけ「うまい」や「おいしい」といった味覚評価表現とジェンダーの関係に焦点を当て、①グルメ漫画および②グルメ番組における男女の味ことばを定量的に分析した。その結果、グルメ番組という現実の世界では、男女ともに「おいしい」系の使用が多いものの、グルメ漫画という『『仮想現実』（ヴァーチャル・リアリティ）』（金水 2003：37）の世界では、「女性は『おいしい』系、男性は『うまい』系を用いる傾向が強い」（稲永 2022：147）ことを明らかにした。このことは、グルメ漫画という仮想現実の世界において使用される「うまい」が男性の役割語、つまり「ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができる」と、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができる」（金水 2003：205）の言葉づかいとして認識されている可能性を示唆している。

しかしながら、稲永（2022）は定量的な調査であるため、グルメ漫画の男

女登場人物に味覚評価表現が割り当てられる文脈を詳細には分析していない。そこで、本発表では、稲永(2022)において分析対象とした漫画の種類および冊数を増やし、「うまい」と「おいしい」が役割語として認識されているという仮定のもと、(1)「うまい」が男性に、「おいしい」が女性に割り当てられるのはどのような文脈であるか、そして(2)(1)とは対照的に、「おいしい」が男性に、「うまい」が女性に割り当てられるのはどのような文脈であるかを定性的に分析することにより、その割り当てにはどのような社会的規範が作用しているのかを考察する。

「うまい」が女性登場人物に割り当てられる際、「女性は女性らしく振る舞うべきだ」という社会的規範からの逸脱を意味する場合がある。たとえば、『深夜食堂』1巻の第12夜における、プロレスチャンピオン・リョーマ藤崎(女性)がキューリのぬか漬けを食べながら発する「これが一番うめえや」に注目する。この回の冒頭、リョーマ藤崎は、路上ライブ中に男性達から殴られている男性(将平)を助ける強い女性として描かれ、「ちわース。」と言いながら将平を引き連れてお店に入ってくる。さらに、キューリのぬか漬けを丸ごと手づかみで食べるリョーマ藤崎には、「ジロジロ見んじゃねーよ!」、「ジロジロ見んなって言ってんだろ!？」といった男ことばが割り当てられている。しかし、その後、将平と恋人同士になると、リョーマ藤崎は、キューリのぬか漬けを切った状態で食べるようになり、「将平、デビューが決まったの!」と女ことばを使用するようになる。周囲の客からも「この頃女っぽくなったなあ」とみなされる。そして、リョーマ藤崎が将平との結婚を報告しにお店に行く際、「ちわース。」と言いながら先にお店に入るのは将平なのである。リョーマ藤崎は、一度プロレスラーを引退するものの、将平の浮気をきっかけにしてプロレス界に復帰し、最後の場面では、キューリのぬか漬けを手づかみで食べながら「これが一番うめえや」と発するのである。つまり、ここでは、リョーマ藤崎の言語使用の変化が彼女の「男らしさ」から「女らしさ」そして「男らしさ」へ戻るといった変化を表しており、「女らしさから逸脱すること」と『うまい』系の味覚評価表現を使用すること」が結びつけられていると言える。

また、男女の登場人物がどのような相手に対して味覚評価表現を使用して

いるかという点も重要である。たとえば、『忘却のサチコ』17巻の第162歩では、編集者である小林心一（男性）が、小説家である川端アリサ（女性）に対して「いやー美味しかったですね。」と発する。小林心一は男性であり、川端アリサよりも年上であるにもかかわらず、「おいしい」系の味覚評価表現（「美味しかった」）を使用している。このことは、作者が登場人物が男性であるか女性であるかというよりも、編集者と小説家という力関係に重きを置いていることを意味する。それゆえ、場面のフォーマルさも男女の登場人物に対する「うまい」や「おいしい」の割り当てに影響を与えていることを考慮しながら分析を行っていく。

【引用文献】

稲永知世 (2022) 「女の『うまい』・男の『おいしい』 — 男性しか『うまい』と言わないのか? —」 瀬戸 賢一 (編) 『おいしい味の表現術』 集英社インターナショナル, 127-154.

金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 — 役割語の謎 —』 岩波書店.

(いねなが ともよ・佛教大学准教授)